

NHK の虚偽報道を許してはならない

平日夜9時からのNHK報道番組「ニュースウオッチ9」で、2023年5月15日、SARS-CoV-2ワクチン接種後に亡くなった方の遺族を、あたかもコロナ感染症で亡くなった方の遺族のように紹介する映像が流されました。コロナ禍の3年間を振り返るこの1分程の映像では、ダイヤモンド・プリンセス号や緊急事態宣言時の人けのない街並みなどコロナ禍を象徴する風景とともに、「コロナ禍で亡くなった方」のご遺族3人のインタビューが流されました。前知識なしで見ると、コロナ感染死のご遺族としか思えませんが、実際はワクチン接種後に亡くなられた方々のご遺族だったのです。映像では、ワクチン後に亡くなった説明などは一切なく、ワクチンという言葉すら出ていません。誰が見てもコロナ感染症により死亡した方のご遺族と勘違いし、ワクチン後に死亡した方のご遺族とはわからない内容です。

ご遺族の方々は、今までメディアでほとんど取りあげられなかったワクチンの被害をようやく取り上げてくれることになると思い、NHKの取材を受けました。ご遺族の想いは、このワクチンの被害を世間の多くの人に知ってもらい、国がワクチンの害を認めて必要な救済をし、二度と同じような被害者を出してほしくないというものだったと思います。今回のNHKの映像はワクチン被害に遭われた方の、まさにこの想いを踏みにじるような内容です。NHKは取材に協力したNPO法人から抗議を受け、「ご遺族の思いを伝えるという考えで放送しましたが適切ではありませんでした」と謝罪をしていますが、この謝罪内容も全くの出鱈目です。今回の映像は「少しずつ明るい未来へ」というテロップで締めくくられていました。このテロップをご遺族が見てどう感じるか想像し、猛省すべきです。そして、被害者の想いを伝える内容を放送すべきです。

「薬害の最大の原因は情報隠蔽」であり、研究者や国民に直ちに必要な情報を提供してほしいと、薬害エイズ被害者の川田龍平議員は国会で政府に訴えています。現在報告されただけでも2000人以上のSARS-CoV-2ワクチン接種後の死亡や、その10倍もの重篤な害反応が起こっているにもかかわらず、NHKだけでなくマスメディアは情報隠蔽を続け被害を拡大させています。読者の皆様は日本のメディアがこのような悲惨な状況であることを理解し、本誌などで正しい情報を得てこの悲惨な状況から身を守って欲しいと思います。